2021 茨城大会会長
小室　浩之
茨城県立笠間高等学校長

ご挨拶

第 58 回全国高等学校美術、工芸教育研究大会〈2021 茨城大会〉の開催に向けご挨拶申し上げます。2021 茨城大会は、「VIVA ！ Art ！」～価値でつながる美術、工芸教育～をテーマとして、新学習指導要領にあわせて、「Value 自分の価値とは」「Item どのように学ぶか」「Variation どのように支援するか」「Action 実践には何が必要か」という４つの分科会を設けて実施いたします。

この１年、新型コロナウィルス感染症防止対策のため、全国の学校が休校を余儀なくされ、教育活動や課外活動、行事などが中止となり、生徒の活動も制限されるなど多方面に渡って影響がでました。そんな中、参加者の安全と今私たちにできることについて議論を重ねた結果、全国から寄稿された研究を誌上とＷＥＢとを組み合わせて発表することとしました。本大会を通して、全国の先生方がつながり、新たな美術、工芸教育の価値に気付くことが出来る大会にしたいと考えています。

人類は、これまでも多くの災害等を乗り越えてきました。そのたびに、芸術の持つ力が、人々に勇気をもたらしました。美術、工芸も、心の癒やしはもちろんのこと、折れそうな心に、前に進む力を与えてくれるものでした。

今大会が、全国の先生方と高校生にとって、少しでも力になり、今後の美術、工芸教育の発展の一助になることを期待しております。

WEB 開催内容

分科会発表動画	各分科会テーマに沿った研究発表動画を公開します。
助言者の講評	各分科会の発表をご試聴いただき大会開催後にコメントをいただきます。
VIVA☆シート	茨城県の先生方の授業を PDF シートや動画で公開します。

大会参加者のみの期間限定公開となります。大会参加者は大会冊子を読みながら、**WEB** 上の研究発表を視聴し、研修できます。

大会公式 WEB ページ

http://www.iba-art-craft.koukyouken.ibk.ed.jp/
QR コードはこちらです→

VIVA! ART! 2021 IBARAKI

大会テーマ
VIVA! Art! ～価値でつながる美術、工芸教育～

＜２０２１茨城大会＞では、「VIVA!Art!～価値でつながる美術、工芸教育～」をテーマとして、参加された先生方と“つながる”４つの分科会を用意して、明日の美術、工芸教育を考えていきます。

Society5.0 社会の到来を目前にして、「新しい価値を見つけ出す感性と力、好奇心・探求力」を身に付けた人材の育成が求められる今、私たちの美術、工芸教育が果たす役割は今後益々大きくなっていくはずです。

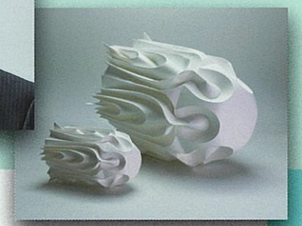
本大会では、それぞれの分科会テーマに基づいた授業実践・研究発表を視聴していただき、そこで得たアイデアを私たちの新しい価値として共有し、自分の学校や地域で活用・実践する、そんな大会を目指します。

記念寄稿・記念メッセージ

三谷　純　氏

筑波大学 システム情報系 教授
主な研究分野はコンピュータグラフィックス、形状モデリング、計算折紙

1975 年 静岡生まれ．2004 年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了．博士（工学）．理化学研究所研究員を経て 2005 年より筑波大学に勤務．令和元年度文化庁文化交流使．日本折紙学会評議員 (2018-)、日本図学会、情報処理学会など正会員．日本図学会 学会賞、マイクロソフトリサーチ日本情報学研究賞など受賞．主な著書に『立体折り紙アート（日本評論社）』『曲線折り紙デザイン（日本評論社）』などがある．



第 1 Value

WEB 分科会

自分の価値とは ～自信につなげる価値への気づき～

授業を通じて生徒と教師が共に自らの価値＝Value を意識し、高めていく美術、工芸教育を考えます。生徒が「私にもこんなことができて、ちょっと自信がついた」と思える授業、先生方が「私の授業にはこんな価値がある」と自信を持っている授業の例を共有し、参加者も少し自信をつけて授業に臨めるような分科会を目指します。

助言者
小口　あや　氏
（茨城大学教育学部　助教）

第 2 Item

どのように学ぶか ～技術でつながる新たな切り口～

古典的な伝統技法から新しいデジタル技術まで、美術、工芸には様々な技法や技術があります。しかし、道具を使いこなせればよいものではなく、道具や技術から「何を」「どのように」学ぶのかが授業では重要です。そして、「教え方」「考える技術」も教師によっては一つのアイテムです。道具や技術から「何を」「どのように」教えるのか、それが生徒のどのような学びにつながるのか、それぞれの教師「ならでは」の指導技術＝Item について考え、アイデアを膨らませられる分科会を目指します。

助言者
石黒　美男　氏
（文教大学教育学部　教授）

第 3 Variation

どのように支援するか ～変化につながる多様な展開～

各学校の実態、生徒の資質・能力の違いに応じて、先生方は生徒のやる気を引き出すために、日々工夫をしながら授業を構成していると思います。生徒のモチベーションを高める授業の組み立てや、評価方法の工夫など、どのような支援によって生徒に変化が起きたり成長したりしたか。先生方のアプローチの工夫やアイデア、さまざまな展開方法＝Variation を持ち寄って、「それ、やってみよう！」と思える分科会を目指します。

助言者
青柳　路子　氏
（東京藝術大学美術学部　准教授）

第 4 Action

実践には何が必要か ～茨城でつながる理想の授業～

理想の授業を実施するためにはどうしたらよいのか。地域や学校の実態を踏まえ、他教科・学校間の協働・連携を通し、カリキュラムマネジメントの実現に向けて、どう行動＝Action するべきかを考えます。学校環境を取り巻く様々な制約や生徒の実態がある中で、工夫し、問題解決につなげた例などから希望を見つけ出し、明日への意欲と、理想的な美術教師の姿へとつながる分科会を目指します。

助言者
吉田　奈穂子　氏
（筑波大学芸術系　助教）